

10月 山行報告

◆比良山系 武奈ヶ岳山行

日 時：10月22日（日）

リーダー：今山(正) SL：舛賀(清) 参加者：21名

武奈ヶ岳 日帰山行 甘くみないで 利弘

比良山系の最高峰、武奈ヶ岳をめざして私たち21名は上々の天気の中を、みなと観光バスで元気に出発しました。

湖西道路に入ると右に琵琶湖、左に比叡山が見えて、しばらくすると比良山系の山並みへ進み

(40年も昔、比良山でスキーをした事を思い出し、雪質が良かった印象が今でも残っています)、山頂を見るとガスがかかっており、頂からの眺めは期待できないなあと思いながら葛川支所前の駐車場に到着、気温は17度Cでした。すでに多くの登山者で賑わっていました。はやる気持ちを押さえて注意事項を聞いて、ストレッチを十分行い、さあ 登るぞ！

アオの信号を早よ渡れ、やもめ料理と親父ギャグを連発しながら地主神社を通り過ぎ 100 米程進んだら、苦行のはじまりとは思ってもみなかった。急登だから 30 分毎に休憩を与える意味を理解しました。意気込みと裏腹に 10 分後にはもう喘いでいました。自問自答しました。訓練不足だ、この一言に尽きる。

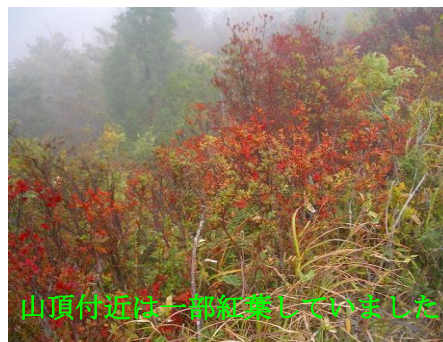
中団より後ろの方に位置し、先頭に目をやるとはるか上の方を登っており、あんな高いところまで？、それからは上を見るのをやめました。汗が噴き出しタオルはザックの中、青いハンカチは間に合いません。汗が目には入るしどうすればいいのか、やっと休憩の声に救われる。早速タオルと水を取り出し、息を整えているともう出発の声が。

しんどい、しんどい誰かリタイヤしてくれへんかな、私も一緒にあげと思っているが、誰もいません。その上後ろの方からも前から話し声が、聞こえてくるではありませんか？どうしてこんな時にお喋りが出来るのか不思議でした。そんなときに私たちを追い越していった人がおり、驚愕の極みです。私たちの中にも彼らに負けない健脚の持ち主もおられると思う、有り難いと心の中で感謝しつつ、前、前といや、上へ上へと進みました。

腰が砕けそうになり、初めての経験でした、こんなのは、ヨロヨロしながらやっとの思いでした。ハアハアと先頭にも聞こえそうな荒い息をしながら、休憩はまだかいな、休憩をしたいなーと思いながら、北アルプスや三の峰への山行をしていたらと思うとゾーとする。会長やメンバーに多大な迷惑をかけただろうとか、砂川会長、絵の上手い

武奈ヶ岳・行動記録

場所	着	発
J R 加古川駅		
北口ロータリー		7:00
坊村駐車場	9:10	9:25
休憩	10:00	10:05
休憩	10:50	11:00
御殿山	11:30	12:00
ワサビ峠	12:05	
武奈ヶ岳	12:35	12:50
ワサビ峠	13:15	
御殿山	13:20	13:30
休憩	14:15	14:25
坊村駐車場	15:05	
J R 加古川駅		
北口ロータリー	18:20	



山頂付近は一部紅葉していました

河合さん達が1日も早く山行復帰出来ますよう祈ったり願ったりしていると、休憩の声、ヤレヤレとへたり込むと強い風が気持ちよかった。他の人は本当に元気だ、達者な人達だと思いました。普段からの訓練、トレーニングのたまものと思いました。さあ御殿山を目指して出発だ。急な坂が相変わらず続いていて、ひたすら下を向いたまま登りました。息を鼻から吸ったり、口から吸い込んだりしている内に御殿山に到着です。ここで30分間の食事休憩です。30分も休めると、ゆっくりおにぎり3個と少しの副食を食べていると、出発5分前のコールで慌ただしく片づけ、記念写真を撮り、武奈ヶ岳へいざ出発だ。ここから40分と地図にかいてあり、気分的には少し余裕を持てて良かったが、体力的には一向に余裕を持てずしんどい思いをしながら歩き続けました。程なく稜線に出て周りを見渡せばガスで何も見えない、期待はしてなかったけれど、ちょっと寂しい。この辺が琵琶湖、あのあたりが京都の街並みか、紅葉もきつときれいだろうなと思わずにはいられない心境でした。下りてくる人に後どの位と尋ねると「もう一寸、もう一寸頑張ってや」といわれ、強風に飛ばされないよう一步一步確実に歩を進め、武奈ヶ岳頂上に到達した。ゆっくりと腰を下ろし足腰につぶやいた。やっと登れたと。シャンとした体と、絶景であればテンションも上がり盛り上がったと思いますが、いかんせんこの天気です。記念写真も早々に切り上げ下山を開始しました。



武奈ヶ岳山頂にて

登るときには全く気がつかなかったヘリのレスキュー場、松の木が地面を這っている、枯れ木、鉄の車輪等を見る事が出来ました。本当に余裕のない大変な登山であったとしみじみ思いました。話も当然出来て、お名前の確認もできました。いつの日にかは、歌でも口ずさみながら登りたいものです。水の摂取量のすくないのには驚きです。1,3L程でした、ザックの中も見直しをしてもっと軽くしないといけないとつくづく思いました。長時間の山行にも耐えられる基礎体力を付け、多くの山行に参加させてもらいたいと思いました。21名のメンバー全員が怪我もなく元気に下山することが出来、本当に良かったと思いました。先頭の舩賀さんの巧みなペース配分、後ろの集団の配慮、事務局の渡邊さんの細部にわたる心遣い、それと面倒な会計を担当された松尾さん達、本当にご苦労さん、ありがとうございました。



下山後、武奈ヶ岳を背景に

終わりに余計な一言を。下山して駐車場へ行くおり、信号機のある横断歩道を渡らずに、横断した方が数名おられました。多くで渡れば怖くないかもしれませんが、山も、下界もルールとマナーを守り安全、安心を確立しましょう。次回の青葉山は甘く見ないで訓練を行い、多少、余裕のある山行になるよう努力します。

◆青葉山山行

日 時：11月3日（金 祝日）

L：今山(正) SL：舛賀 参加者19名

「若狭富士 青葉山に登って」 佐藤(玲)

青葉山って、どこに有る、どんな山？ と言うことで、調べてみました。

＊福井県高浜町と京都府舞鶴市との境にそびえる山

昔、火山活動によって出来た山。 その美しい山容から別名若狭富士と呼ばれているそうです。

私にとっては、久々の山行であり、会のみなさんとバスで行くのも、今回が初めてなので

（残念ながら三の峰には行けなかったもので・・・）数日前より、ドキドキ、ワクワク・・・

とても楽しみでした。

当日は、加古川駅北ロータリー7時集合、ほどなく「山の会アルプ」の中村さんが運転して下さるバスで一路、青葉山へ向けて出発です。途中「さんなん仁王駅」と言う

道の駅で休憩をとり、小野市あたりからモヤがかかり、一面まっ白だった天気も、舞鶴に入った頃には青空が広がり、日差しが眩しい位の晴天となり、10時には西国29番札所である松尾寺（まつのおでら）に着きました。

まずは、本堂で山行の安全を祈願し、境内でストレッチをして、さあ！出発です。

整備された登山道を10分程登ったところに、石の鳥居があり、そこを過ぎると急登となり、頂上まではつづら折りの登りが続くのですが、途中には、金属の梯子あり、倒木あり、道巾のすごく狭い所があったりして、少し怖い思いもしましたが、バリエーションにとんでいて、結構楽しく登れました。12時少し前に、小さな神社のある頂上に到着そこには、小さな岩山がありロープが下がっている所を登ると、360度の展望が広がり北側の眼下には若狭湾が一望でき、南側には幾重にも重なる山並みに霞がかかり、まるで墨絵のようでした。「若狭で登ってみることを薦めたい山」一位だそうです、なるほど納得です。狭い岩場の頂上で記念写真を撮り、思い思いの場所で昼食をすませ12時半尾根づたいに西峰より東峰へ縦走開始、これまたバリエーションにとんだ縦走路には満足しました。

このあと、車で一時間程走った所にある「あやべ温泉」で、ゆっくり汗を流し、夕食を済ませて帰路についたのですが、そのバスの中での大合唱には、最初少し引き気味でしたが、いつのまにか大合唱の輪の中に入りこんでしまった私でした。そうこうしているうちに9時前に加古川駅に帰ってきました。

長い道のりを運転して下さった中村さんを始め、リーダーの今山さん、会の皆様には大変お世話になり、本当に有難うございました。

＊秋の日に落ち葉踏みしめ青葉山

眼下に広がる若狭の海に

みんなの笑顔がはじける

青葉山山行 行動記録

場所	着	発
J R加古川 北口		7:00
松尾寺		10:40
西峰（岩頭）	11:40	12:00
東峰（青葉神社）	12:40	13:00
展望台（あずまや）	13:30	一寸休憩
今寺集落の農道		一寸休憩
松尾寺	15:00	15:30
あやべ温泉	16:30	18:00
J R加古川 北口	21:00	

